



台風等の水害時における避難等

酒井 信幸



問 市長は「情報を流すのは空振りしても構わない、素早く情報を発信していきたい」と言っていたが、今回、時間差を設けて避難所を開設したのはなぜか。

市長 確実に受け入れ態勢ができて前提で避難情報を出しています。阿武隈川の水位を頭に入れながら、刻々と変わる気象情報に合わせて避難所を開設しました。

問 指定避難所は25カ所あるが、開設したのは9カ所だけだった。なぜ他の避難所を開設しなかったのか。

総務部長 避難所を開設するタイミングは大変難しいと感じました。環境の整備も含めて、開設については検討します。

問 垂直避難について地域、災害、場所等によって変わる。さまざまな要因を含め、しっかりと周知徹底すべきだと思いがどうか。

総務部長 垂直避難も避難であるということや、阿武隈川の土手沿いの方には、垂直避難ではなく避難所への避難をしっかりとPRしていきます。

問 内水ハザードマップを作成する考えはあるのか。

防災課長 台風19号の被害を受けて、国土交通省が内水ハザードマップの作製を進めるとの報道がありますが、国からはまだ明らかにされていません。

堤防の強度や高低どうか

問 阿武隈川の堤防の強度や高低について伺う。

土木課長 堤防の強度は水防上、重要な箇所の評価基準は満たしています。堤体が一部完成断面となっていない箇所は、国に整備の要望を行っています。また、堤防の高さは、計画高まで整備済みです。

問 大雨による阿武隈川の堤防決壊や越水することを想定したシミュレーションをした避難訓練が必要と考えるがいかがか。

総務部長 堤防が決壊する場所を想定することは難しいため、堤防付近では、水位情報やライブカメラ情報等を用意していただき、早めの避難をお願いしていきます。



岩沼市の雨水排水

須藤 功



問 岩沼市の主な施設として小・中学校、それからハナトピア岩沼、図書館、(市民交流)プラザがある。そこにプラスチックの地下貯留浸透施設(貯留ますという、いったん水をためられる製品)を導入して、近隣の住宅への被害を軽減してはどうか伺う。

建設部長 (地下貯留浸透)施設を建設することで、被害軽減は若干なりとも図られると考えますが、この施設を整備するには下水道事業計画の見直しも含め、多額の費用と期間を要します。また、この手段による雨水の一次的な貯留による被害軽減は、暫定的な効果しか得られないと考えますので、抜本的な改革、抜本的な改善という意味では、やはり最終形の阿武隈川と五間堀川の整備に視点を置いて考えていきたいと思えます。

エレベーター修理は税金

問 今回の大雨で市民図書館、(市民交流)プラザは多大な被害になり、エレベーターが故障した。そのお金は誰が払うのか。市の職員

が払う訳ではない。民間だったら「こんなミスしているのだから弁償しろ」なんて言われかねない。それぐらい怒られて当然のようなミスである。その時に修理するお金は税金である。

岩沼小学校はブランドレベルが高いので、多くの住民の家が浸水被害に遭っている。岩沼小学校の水を少しでも一時貯留し、維持費がかからない製品で住民への被害を少なくする。図書館の駐車スペースにも設置し、軽減してはと考える。市長はどう思うのか。

市長 考え方として、分からない訳ではありません。基本的には施設整備、あるいは道路も下水も含め最大雨量に対し設計しています。一定以上降りますと、これに耐えきれないという現実もあるわけです。五間堀川の水位を下げることで内水を解決する方向に向けたかと思えます。提案については参考にさせていただきますが、それを即やるということには、まだ考えに至っていません。